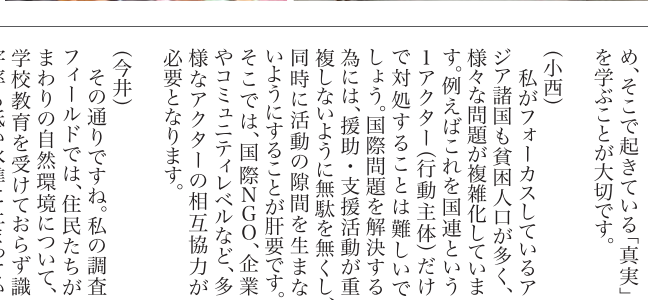


総政のフィールド・ワークは、世界がキャンパス。世界市民として、国際感覚を実践的に身につけます。

今井一郎教授は生態人類学。小西尚実准教授は国際協力・国際人事政策。同じ学部でありながら、専門分野が異なる二人の対談。一見、全く違う分野に思える二人に共通するキーワードは「フィールド・ワーク」。総政の魅力語る上で欠かせない取り組みのひとつです。



め、そこで起きている「真実」を学ぶことが大切だ。

(小西) 私がフォーカスしているアジア諸国も貧困人口が多く、様々な問題が複雑化しています。例えばこれを国連というIAクター(行動主体)だけで対処することは難しいでしょう。国際問題を解決する為には、援助・支援活動が重複しないように無駄を無くし、同時に活動の隙間を生み出すようにすることが肝要です。そこでは、国際NGO、企業やコミュニティレベルなど、多様なアクターの相互協力が必要となります。

今までは現地社会の文化への理解が浅かった?

(今井) そういう例もありました。国際援助に関わる組織・団体の中には、現地の歴史文化をよく調べずに先進諸国で実施している技術やシステムをそのまま当てはめて動かそうとする傾向があるようです。それでうまくいかないことがあるのは事実ですが、それは現地の人びとの知識が無くて怠けているからにはありません。そのやり方には地域の方式に合致しない部分があるからなのです。地域の人びとには敬意を持って接する必要がある、ということを生徒たちに伝えていきたいです。

(今井) その通りですね。私の調査フィールドでは、住民たちがまわりの自然環境について、学校教育を受けておらず識字率も低い水準に止まっているにも関わらず、とても豊かな知識と経験を持ち合わせています。私たちの社会では近代科学に基づいて自然環境を理解し問題解決を図ろうとします。国際援助に携わる組織・機関のスタッフの多くは、地域社会が伝統的に育

(小西) 私もそのことに共感を覚えます。例えば、以前ラオスの教育プロジェクトに関わった事があります。国土の約7割が森林で、49の民族が暮らす多民族国家の中には、数年前にとに住民を移動する習慣のある民族もいます。学校を建て、教育を受けることになることと定住を強いられ、何百年と続いてきた生活文化を壊すことにもなりかねません。政府としては学校を作って教育を充実させ、経済発展につなげていきたいという思いがある中で、どのような教育が当該国の人たちにとって最適なのか、政府と国際機関に多様なアクターを巻き込み議論が展開されました。

今井先生は、世界遺産の調査研究を続けられていますか?

(今井) 世界遺産へのアプローチの始まりは、私が行ったフィールドが世界遺産に指定されていたので、その地域の生活文化について調べ始めたことがきっかけです。世界遺産は、世界中に1,000箇所近くあり、人類共通の宝であるから保護しなくてはならないというところで、指定された国が責任を持つて維持管理します。しかし現状は、観光地化による弊害が目につきます。例えば、ネパールのエベレストと周辺地域を、政府は観光地化して価値を高めようとしています。観光業を中心とした観光地化の結果、地域の自然に対する知識や技術が急速に失われてし

(今井) 先ほども触れましたネパールは私の調査フィールドの1つですが、ゼミの海外授業でも訪れました。ネパール・カトマンズ郊外の町バクタプールの世界遺産調査で、エベレスト山麓だけでなく、都市部でも世界遺産指定と観光地化によって住民生活が制約を受けていることが浮き彫りになりました。今年にはゼミの実習で沖繩県・西表島を訪問しました。「環境にやさしい」とされるエコツアーがどの程



国際政策学科 小西 尚実 准教授

【担当授業科目】 国際公務員、グローバルキャリアデザイン

お二人の授業ではそのフィールド・ワークを実践されているのが印象的です。

(小西) 私は、前職で8年滞在したフィリピンにおいて、特に貧困層の中での教育問題に重点をおいた支援活動に取り組んでいます。フィリピンでは富裕層と貧困層の格差が広がって、urban poorと呼ばれる都市部における貧困問題が深刻化しています。ストリートチルドレンが暮らすスラム街や、かつてスモーク・キマウンテンと呼ばれたゴミ山を学生達と訪れ、現地の国際NGOのスタッフと共に、子供たちの教育支援活動を実施するという取り組みを2009年より継続しています。

(今井) 先ほども触れましたネパールは私の調査フィールドの1つですが、ゼミの海外授業でも訪れました。ネパール・カトマンズ郊外の町バクタプールの世界遺産調査で、エベレスト山麓だけでなく、都市部でも世界遺産指定と観光地化によって住民生活が制約を受けていることが浮き彫りになりました。今年にはゼミの実習で沖繩県・西表島を訪問しました。「環境にやさしい」とされるエコツアーがどの程

(小西) 世界には、複雑に絡み合っている国際問題が本当に多くあると感じます。しかしその中で特に残念に感じるの、は国外のことに對して日本人の問題意識がとて低いことです。世界195ヶ国の中、150ヶ国以上が開発途上国。その多くは貧しく、大人は雇用の機会を失い、子どもはほとんどな教育を受けられませんが、また、適切な医療にアクセスできず、パンデミック(世界

(今井) 私も同感です。グローバルゼーションが進む中、今挙げているものは一つで、国で収まるものではないです。社会的な不安として世界全体へ増幅し、紛争に繋がるところもあると思います。国際社会の一員として現状を直視し、積極的解決策を導く必要を感じます。そのためには、現地に行つて自分の目で確か



総合政策学科 今井 一郎 教授

【担当授業科目】 民族と文化、野生動物共生論

め、そこで起きている「真実」を学ぶことが大切だ。

め、そこで起きている「真実」を学ぶことが大切だ。

わかる!総政用語

コン演…「コンピュータ演習」の略。Wordや、プレゼンに必須となるPower Pointなどのスキルを実践的に学び、身につける授業。3年生のゼミ(研究演習1・メディア工房1)を履修するためにはこの単位取得が必須。 ファイナルレポート…1年生のゼミ(基礎演習)で提出する最終のレポート。 アカデミック・commons…「学習×憩い×学生活動」をコンセプトとした新たな建物。2013年4月に完成し、学生によるイベント、留学報告会、ワークショップなどが連日開催されている。



総合政策学科

「自然と人間の共生、人間と人間の共生」のあり方に関する学問横断的な議論を深め、実社会で活かすことのできる政策形成をめざす学科です。自然環境から食糧、紛争、貧困、人権、異文化理解など複雑に絡み合う地球規模の問題を解決していきます。



メディア情報学科

政治、産業、経済、文化など多様な分野において情報通信技術やメディアを駆使して、人にやさしい豊かな情報社会に貢献できる、政策提案とマネジメントについて学ぶことのできる学科です。



都市政策学科

総合的かつグローバルな観点から都市における問題を発見し、快適で安全な都市空間を提案、創造、運営する能力を身につけることができる学科です。1級建築士の受験資格を得るための「建築士プログラム」も開講しています。



国際政策学科

国連が掲げる3つの課題である「国際社会における平和構築」「国際発展と開発」「人権の擁護」を中心として、国際政策の理論と実践を研究。グローバルな視野から政策分析・立案能力など総合的な実務能力を学びます。

◆総合政策学部は入学時には学科に所属せず、多様な分野を幅広く学習し、2年次から学科に所属して専門的な学びを開始します。

フィールド・ワークの意義や価値についても、お聞かせください。
(小西)
フィールド・ワークは現地を訪れ、ただ見学することでは

ものごとの表面だけではなく、根幹の部分にまで目を向けることが大切だということですね。事前に現地の知識を得ておくことは必要ですが、さらに現地へ行って、自身で体験することによって、その場所の課題や問題点が明確になり、多面的なアプローチで物事が理解できます。

現地調査では、私は人類学で言うところの参与観察※によって調査を進めています。これはフィールド・ワークには欠かせない調査手法です。自分が体験して初めて、その人の身になって考えることができるようになります。

度環境にやさしいものであるのか、現場を直接観察することによって検証するためです。現地の人々の生活に触れて、体験しなければわからないことばかりですね。



民族と文化



そうすることが世界市民としての素養を育むことに繋がります。学生のみならず、なにかグローバルな視点も忘れず、真に求められている問題

現地の状況を十分に把握した教員だからこそ実現できる真のフィールド・ワークであるといえます。

はありません。今井先生のように、自ら現地の人と寝食を共にし、積極的に現地の生活に溶け込み、真実を知って良いところも悪いところも全て理解・吸収する姿勢で取り組む姿勢を素晴らしい、このような姿勢でフィールド・ワークに取り組んでいる教員が多いのが総政におけるフィールド・ワークの特徴です。

本講義では、地球上の人間社会と文化について、生態文化(人類学的角度から論じます)。担当者(今井)が実施してきたアフリカ大陸と南アジア(特にネパール)におけるフィールドワークの成果をまじえて議論します。発展途上地域」の生活文化と歴史について、単に「物珍し」と現象として興味本位に取り上げられる態度で扱うのではなく、あくまで客観的な事実・証拠に基づいて進めます。

(今井 一郎教授)

地球規模のあらゆる問題にに対し、そこで起きていることの表面だけから判断するのは

将来、国際社会に貢献したいと考えている学生・受験生にメッセージを。
(今井)
地球規模のあらゆる問題にに対し、そこで起きていることの表面だけから判断するのは

決して偏見や固定観念を持たず、現地に関わる多くの人たちとコミュニケーションを図って信頼関係を築き、そこで知り得た情報や知識について徹底的にディスカッションする。現状と事前に調べたこととのギャップを理解しながら、解決策を探っていく。そして帰国後フィールド・ワークでの学びをどのように自身の問題関心や将来に結びつけて行くのかも検討すべきです。

題解決策を探してほしいものです。初めから国際貢献をしようとして構える、上滑りな結果に終わります。フィールド・ワークを志す人は、世界の様々な地域に実際に行き、何でも見て、素直な心で聞いて、学ぶということから始めてほしいですね。



国際公務員

ア形成という視点より、国際公務員が直面する実際の課題や問題をケースとして取り上げ、受講生が自ら問題の解決策を考えるプロセスを通して国際公務員という仕事への理解を深めます。授業で扱うテーマは、開発援助に携わる様々な職業とその必要要件、国際機関の内部組織や意思決定プロセス、国際公務員の人材育成プロセスなどです。授業で用いる教材や参考文献はすべて英語です。

(小西尚美准教授)

詳しくは WEB で!!

教壇に立つ先生の教えを聞いて回答するスタイルがほとんどの高校と、大学での学び方は違います。解決策が見えない、または導き出すことが難しい諸問題に対し、様々な専門家があらゆるアプローチで議論を交わすのが大学。そこに入っていくためには、自分なりの考えをしっかりと持つ必要があります。誰かのために何かを成し遂げたいという強い意志と行動力を持った学生であれば、総合力と専門力を鍛え上げるにふさわしい学びの場になると思います。

ありがとつございました。

ではなく、物事の本質を見極める目を養う必要があります。だからこそ、現地へ赴き、フィールド・ワークで実践活動を行うことが重要であると認識しています。総合力と専門力を身につけながら、広い視野と国際感覚を持ち併せた学生を育成する学びの場、それが総合政策学部の魅力だと思っています。

Global Career Program (GCaP) とは？

将来、国際機関・国際NGOなどの国際開発援助、国際ビジネス、さらに社会貢献の分野で活躍を志す学生の為の総合政策学部独自のスペシャリスト養成プログラム。2年次から卒業までの間に、将来設計をたて、段階的に知識やスキル、実践力を習得し、国際社会で活躍する将来のキャリアの基盤を築きます。

【GCaPの3つの特徴】

- (1) 公共政策、経営管理、国際関係、経済学など、総合政策学部の総合性を活かした実践的な授業を展開。
(2) 海外留学または途上国フィールドワークに参加し、問題解決能力、政策応用力、高度なコミュニケーション能力、実践英語能力に磨きをかける。
(3) 元国際公務員や国際ビジネスで活躍した教員が指導する少人数ゼミでは、実際の国際問題のケースを用いて、課題の設定や、政策立案の方法を学び、問題解決能力を養うトレーニングを行う。英語によるディスカッションやプレゼンテーション能力の向上、多角的な問題思考力を集中的に鍛えることができる。

あなたに勧めたい総合政策学部の100冊 「かくれた次元」 ET・ホール著 みずす書房・2000年 「他人の距離」や「恋人の距離」テレビや雑誌で目にすることが多い話題であるが、この理論のルーツはこの書籍にある。著者は、動物はそれぞれ「領域」を有しており、その領域を侵害されると攻撃的行動に出たり、逃避的行動に出たり、逃指している。そして同じような領域性が人間にも備えられていることを指摘している。 客野尚志准教授 都市政策学科

発行

関西学院大学 総合政策学部 〒669-1337 兵庫県三田市学園2丁目1番地 TEL.079-565-7601 FAX.079-565-7605

さらに詳しい内容はWEBで!

http://www.kg-sps.jp



Think Globally, Act Locally ~今、身近な問題から世界の扉を開く~